

# 地水火風

## 牧野 恒一

木曾の御嶽山が突然噴火し、多数の登山者が亡くなられた。日本人には昔からなじみ深く、そして危険とも思えなかった御嶽山の突然の変貌ぶりに、改めて自然の怖さを思い知らされた。今回は、この御嶽山の噴火と火山災害について考えてみたい。

年、2007年にもごく小規模な噴火が発生したが、今回の噴火は遙かに大きく、1979年並みだということだ。

9月27日の噴火以降、山頂火口から噴煙が立ち上り、火山性地震が継続しているため、今後も同程度の噴火が発生し火砕流を伴う可能性もあるが、大規模噴火に繋がる兆候は認められない、というのが、28日の火山噴火予知連絡会拡大幹事会の見解である。

これは10月2日現在の数字で、噴火の犠牲者数としては戦後最悪となっているが、安否のわからない方がなお多く、さらに犠牲者が増えることも懸念されている。

「予知と自己責任」 今回の御嶽山噴火は、火山は安全に見えてもいづつ牙を剥くかわからない、ということを改めて教えてくれた。「予知ができれば」とは誰しも思うところだが、十分な観測網を強化するには大変な費用がかかるし、観測データがあっても常に予知ができるほどの科学的知見は蓄積されていないということ、現実的ではないようだ。

# 御嶽山が噴火した

「御嶽山の噴火」 9月27日11時52分頃、長野県と岐阜県にまたがる御嶽山が突然噴火した。火砕流が南西方向に3km以上流下する一方、噴煙は東に流れ、その高さは火口上約7000mに達した。

この噴火がきっかけで火山学上の定義が変わり、「死火山」「休火山」という概念がなくなったという。御嶽山では1991年、2007年にもごく小規模な噴火が発生したが、今回の噴火は遙かに大きく、1979年並みだということだ。

登山者は何が起こったのかわからないうちに噴煙と火山灰の雲に包まれて視界を失い、そこに噴石や火砕流が襲って来たということだ。噴石に頭部などを直撃された人、噴石が当たって倒れたところに火山灰や噴石が降り注いで窒息した人、視界を奪われた中で避難しようとして倒れたり滑落したりして火山灰や火砕流に埋もれた人など、47名の方が亡くなった。69名の方が負傷した(うち重傷者は29名)。

「たぐさんの犠牲者が」 噴火発生が秋晴れの土曜日の昼食時だったため、山頂付近は多くの登山者で賑わっていた。そこで突然噴火が始まったため、登山者は何が起こったのかわからないうちに噴煙と火山灰の雲に包まれて視界を失い、そこに噴石や火砕流が襲って来たということだ。

「各機関の共同作業」 今回の一連の救助活動の洗い出しとマニュアル化に結びつけてほしいものだ。

「予知と自己責任」 今回の御嶽山噴火は、火山は安全に見えてもいづつ牙を剥くかわからない、ということを改めて教えてくれた。「予知ができれば」とは誰しも思うところだが、十分な観測網を強化するには大変な費用がかかるし、観測データがあっても常に予知ができるほどの科学的知見は蓄積されていないということ、現実的ではないようだ。

「御嶽山の噴火」 9月27日11時52分頃、長野県と岐阜県にまたがる御嶽山が突然噴火した。火砕流が南西方向に3km以上流下する一方、噴煙は東に流れ、その高さは火口上約7000mに達した。

この噴火がきっかけで火山学上の定義が変わり、「死火山」「休火山」という概念がなくなったという。御嶽山では1991年、2007年にもごく小規模な噴火が発生したが、今回の噴火は遙かに大きく、1979年並みだということだ。

登山者は何が起こったのかわからないうちに噴煙と火山灰の雲に包まれて視界を失い、そこに噴石や火砕流が襲って来たということだ。噴石に頭部などを直撃された人、噴石が当たって倒れたところに火山灰や噴石が降り注いで窒息した人、視界を奪われた中で避難しようとして倒れたり滑落したりして火山灰や火砕流に埋もれた人など、47名の方が亡くなった。69名の方が負傷した(うち重傷者は29名)。

「たぐさんの犠牲者が」 噴火発生が秋晴れの土曜日の昼食時だったため、山頂付近は多くの登山者で賑わっていた。そこで突然噴火が始まったため、登山者は何が起こったのかわからないうちに噴煙と火山灰の雲に包まれて視界を失い、そこに噴石や火砕流が襲って来たということだ。

「各機関の共同作業」 今回の一連の救助活動の洗い出しとマニュアル化に結びつけてほしいものだ。